

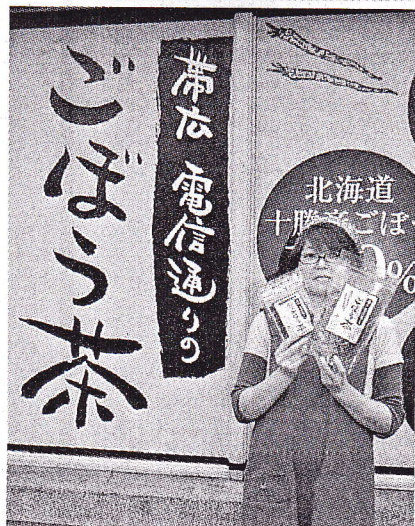
2013年(平成25年)7月31日(水曜日)

電信通りの「ごぼう茶」です

地域密着を強化

帯広ケア・商品リニューアル

障害者就労支援施設「社会福祉法人慧誠会 帯広ケア・センター」(帯広市川西町、片平修所長)の利用者や職員で製造する「ごぼう茶」がリニューアルされた。帯広電信通り商店街振興組合(長谷渉理事長)が同通りに開設し、センターが運営する軽食喫茶「コミュニティショップ ミナミナ」(同市大通南5)などで8月1日に販売を始める。種類が増えた他、パッケージに「帯広 電信通り」の文字を加えたことで、地域と密着した取り組みとしてアピールする。



「ごぼう茶」は2010年に誕生。従来は煮出し用25g(250円)のみの販売だった。今回、内容を増やし45g(400円)にした他、急須で飲める深煎り・二度ばい煎35g(400円)も用意した。また、パッケージに「帯広 電信通り」と入れることで、地域との距離感を縮める工夫も凝らした。発売に合わせ、店舗の外壁にも「帯広 電信通りのごぼう茶」の文字が入った。

原材料のごぼうの栽培から商品の販売まで、一貫してセンターの関連施設で行っている。川西町にある農場で栽培し、電信通りにある「乾燥工房ハル」で加工、同工房に併設する「ミナミナ」や「べんぞう商店」(東2南6)などで販売する。併せて、大豆などを煎って袋詰めした「とん豆」(全4種類、各150円)の販売も開始する。

同組合の長谷理事長は「地域との関わりが一段と進んだ」と話している。

(土屋航)